

環境経営レポート

2023年度版 (2023年4月～2024年3月)

拝啓 ゴミさま

私たちに、便利で豊かな
生活を与えてくれて、
ありがとうございました。

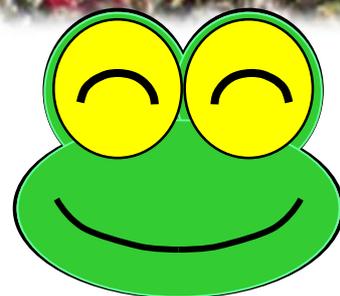
返信

私達は、まだまだ
役に立ちたいです！
ゴミより

株式会社タズミ


Tazumi

発行年月日：2024年 5月 14日



ごみが生きかえる!!

環境経営方針

環境理念

タズミは「不要になったものを、可能な限り有効活用する」という精神で

サーキュラーエコノミーとカーボンニュートラルを推進し、持続可能な社会形成に貢献して参ります。

行動指針

タズミの従業員は、事業活動の環境効果を良く理解し

自ら主体的に取り組み皆と協力して、環境負荷低減を推進します。

1. 廃棄物の収集運搬、中間処理をはじめとする、各種サービスの提供を通して、廃棄物の削減、再利用、再資源化、省エネルギー活動及び節水等を推進します。
2. 二酸化炭素の排出抑制効果の高い廃棄物の燃料化事業を推進します。
又、この事業の意義や効果について、従業員・事業者・市民への周知啓蒙活動に努めます。
3. 環境に関連する法令・規制を遵守し、継続的に汚染の予防に努めます。
4. SDG's が目指す持続可能な将来の為に、目標を立て計画をして、事業を通して実現していきます。
5. 外的要因、内的要因による課題を十分に検証し、事業のチャンスとなるように目標を立て計画し改善に取り組みます。
6. 環境管理活動の目的・目標及び施策を活動計画の中で明らかにし、全従業員がそれぞれの役割に応じて、創意をもって環境管理活動を推進します。
7. 代表者による取組状況の評価と全体的な見直しの実施により、活動状況を確認し、改善及び是正を行い、施策を推進するとともに、環境マネジメントシステムの維持、並びに継続的改善に努めます。
8. 従業員に対する環境教育を計画的に実施し、環境保全に対する意識の向上に努めると共に、従業員一人ひとりが良き企業市民として行動します。
9. 環境経営方針は、すべての従業員に周知するとともに、環境活動レポートやホームページを通じて、社外にも公開します。

2024年 5月 1日

神奈川県綾瀬市吉岡709

株式会社 タズミ

代表取締役 田墨幸一郎

目次	頁
1. 会社概要	1 - 7
2. 事業実績の推移	8
3. 環境経営目標	
3.1 中期環境経営目標（3カ年）	9
3.2 中期環境経営目標に基づく、2023年度活動計画	10
3.3 部門別活動内容と実績	11-13
3.4 小集団活動(Bottom Up型)を取り入れた改善活動実績	14-15
4. 「プラタンの森計画」実績報告	16
5. 環境関連法規等の遵守状況及び、評価結果	17
6. 環境測定結果	18
7. 2023年度 of 取組結果とその評価、及び前回代表者による全体評価と見直し結果	19
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	20
9. 2024年度環境活動目標・計画	21
10. 各部門 活動実績資料	
10.1 教育訓練	22-23
10.2 緊急時の訓練	24
10.3 改善活動	25
11. その他	
11.1 廃棄物処理委託先の視察	26
11.2 環境保全寄付	27

1. 会社概要

1) 事業所名及び代表者名

- ・株式会社タズミ
- ・代表取締役 田 墨 幸 一 郎
- ・法人設立年月日 1984 (昭和59) 年 8月 1日

2) 認証・登録範囲 (事業所) (所在地)

- ・本社・吉岡リサイクルセンター 神奈川県綾瀬市吉岡709
- ・早川RPF工場 神奈川県綾瀬市早川2647-35
- ・早川第2工場 神奈川県綾瀬市早川2647-32
- ・早川リサイクルセンター 神奈川県綾瀬市早川2275-1
- ・プラターン海老名工場 神奈川県海老名市上郷4-2-8
- ・海老名第2工場 神奈川県海老名市上郷4丁目2710-14

3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

- ・責任者 常務取締役 田 墨 啓 治
- ・担当者 管理課 永瀬 優一
- ・連絡先 電話 0467-77-1847 FAX 0467-77-1936

4) 認証・登録対象活動

- ・可燃性廃棄物を原料とする再生固形燃料の製造及び販売 (JIS Z 7311 RPF-A認証)
- ・産業廃棄物の収集及び運搬業務、処分業務(主に再資源化处理)
- ・一般廃棄物の収集及び運搬業務、処分業務(主に再生固形燃料化)
- ・資源リサイクル業 (古紙・鉄くず・非鉄・アルミ・プラスチック・ガラス)

5) 事業の規模

- ・資本金 2,000万円
- ・事業規模を 表1 に示す

表1 事業規模

活動規模	単位	2021年度	2022年度	2023年度
		2021.4~2022.3	2022.4~2023.3	2023.4~2024.3
売上高	百万円	1,290	1,310	1,373
従業員	人	60	60	60
敷地面積	m ²	7,999	7,999	7,999
工場床面積	m ²	4,233	4,233	4,233
受入廃棄物保管容量	m ³	2,562	2,562	2,562
処理後物保管容量	m ³	1,745	1,745	1,745

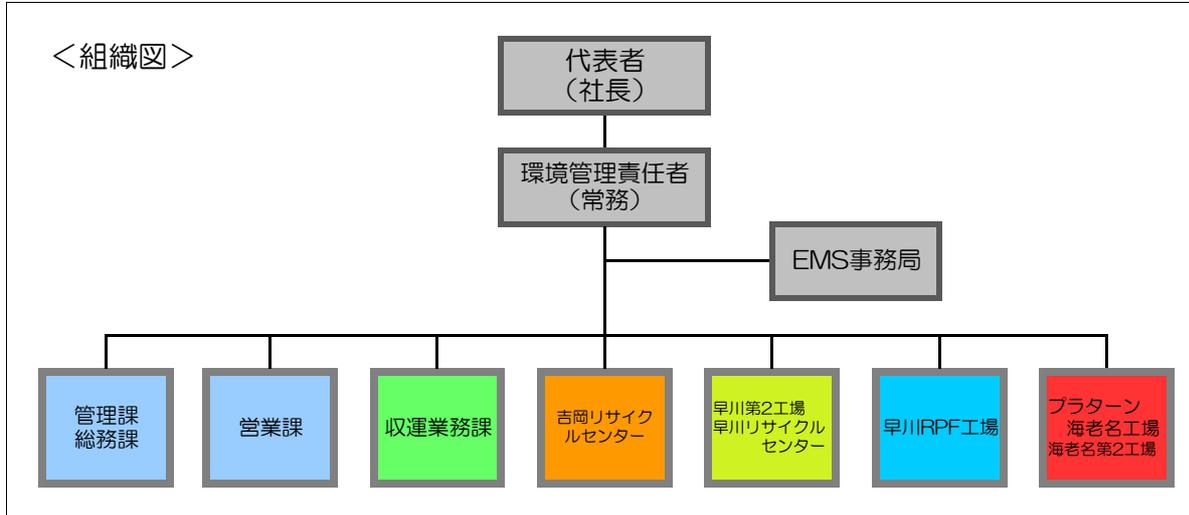
1. 会社概要

6) 組織図

組織図を図1に示す。

図1 環境管理実施体制

2024年5月1日現在



環境経営システムに関する責任・権限は表2に示す。

表2 環境経営システムに関する責任・権限

環境経営システムに関する責任・権限	
代表者 (社長)	1. 環境管理責任者の任命 2. 環境方針の策定 3. 環境経営システム実施及び官吏に必要な資源の準備 4. 環境経営システムの定期的な見直しの実施 5. 社内情報の外部公開可否決定
環境管理責任者 (常務)	1. 環境経営システムの確立、実施及び維持するための処置 2. 社長に対し、環境経営システムの実績報告 3. 環境経営システムの教育・訓練の計画・実施の責任者 4. 外部からの環境に関する苦情や要望の受付窓口
EMS事務局	1. 環境管理責任者の補佐、EMS推進事務局 2. 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 3. 環境目標、環境活動計画書原案の作成 4. 環境活動の実績集計、環境関連法規等取りまとめ表の作成 5. 環境活動レポートの作成
各部門長	1. 環境活動の計画・実施の部門責任者 2. 改善活動の推進
一般従業員	1. 環境活動計画に基づいた環境活動及び業務改善活動の推進 2. 小集団活動を取入れた改善活動の推進

1. 会社概要

7) 廃棄物処分量に関する許可内容一覧

・産業廃棄物処分量、一般廃棄物処分量許可内容は表3・4に示す。

2024年5月1日現在

表3 許可番号（廃棄物の種類）

■は優良産廃処理業者認定制度で優良認定を取得した自治体

許可内容	許可自治体	許可番号	許可更新年月 許可有効年月日	廃棄物の種類														特別産業廃棄物 <small>区分するための区分するもの</small>	一般廃棄物（ごみ）					
				燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず	鉱さい			がれき類	ばいじん			
産業廃棄物	神奈川県	01422023601	令和5年5月18日	吉岡						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
				早川						○	○	○	○	○	○									
				早川第2						○	○	○	○			○	○							
			令和12年5月6日	海老名						○	○	○	○			○	○							
			令和12年5月6日	海老名第2					○	○	○	○	○	○	○									
一般廃棄物	海老名市	指令第27号	令和5年04月01日																				○	
			令和7年03月31日																					
	綾瀬市	指令リ第54号	令和5年07月04日																				○	
			令和7年07月03日																					

表4 各事業所の許可内容

事業の区分	中間処理（破碎、機械選別、切断、減容固化、圧縮）
中間処理施設	早川RPF工場 神奈川県綾瀬市早川2647-35
	①破碎施設 処理能力 30.72 t/日（16h）：15.36 t/日（16h×2基）
	②減容固化施設 処理能力 32t/日（16h）：16t/日（16h×2基）
保管施設	合計保管面積/保管容量 417.7㎡/880.9㎡
中間処理施設	吉岡リサイクルセンター 神奈川県綾瀬市吉岡709番地
	③破碎施設 処理能力 3.9t/日（8h）、木くずの場合4.9t/日（8h）
	④機械選別施設 処理能力 50t/日（10h）
	⑤切断施設 処理能力 30t/日（10h）：10t/日（10h）×3基
保管施設	合計保管面積/保管容量 1038.0㎡/1202.6㎡
中間処理施設	プラター海老名工場 神奈川県海老名市上郷4-2781-14
	⑥選別施設 処理能力 72t/日（16h）
	⑦破碎施設 処理能力 72t/日（24h）
	⑧減容固化施設 処理能力 72t/日（24h）：36t/日（24h）×2基
保管施設	合計保管面積/保管容量 463.5㎡/1592.6㎡
中間処理施設	海老名第2工場 神奈川県海老名市上郷4-2710-14
	⑨機械選別施設 処理能力 48t/日（16h）
	⑩圧縮施設 処理能力 54t/日（16h）
保管施設	合計保管面積/保管容量 182.0㎡/269.3㎡
中間処理施設	早川第2工場 神奈川県綾瀬市早川2647-32
	⑪機械選別施設 処理能力 138t/日（16h）
	⑫切断施設 処理能力 43t/日（16h）
保管施設	合計保管面積/保管容量 227.3㎡/362.3㎡

表5 事業に供する重機・荷役車両

※吉岡RC:6月ユンボ入替導入

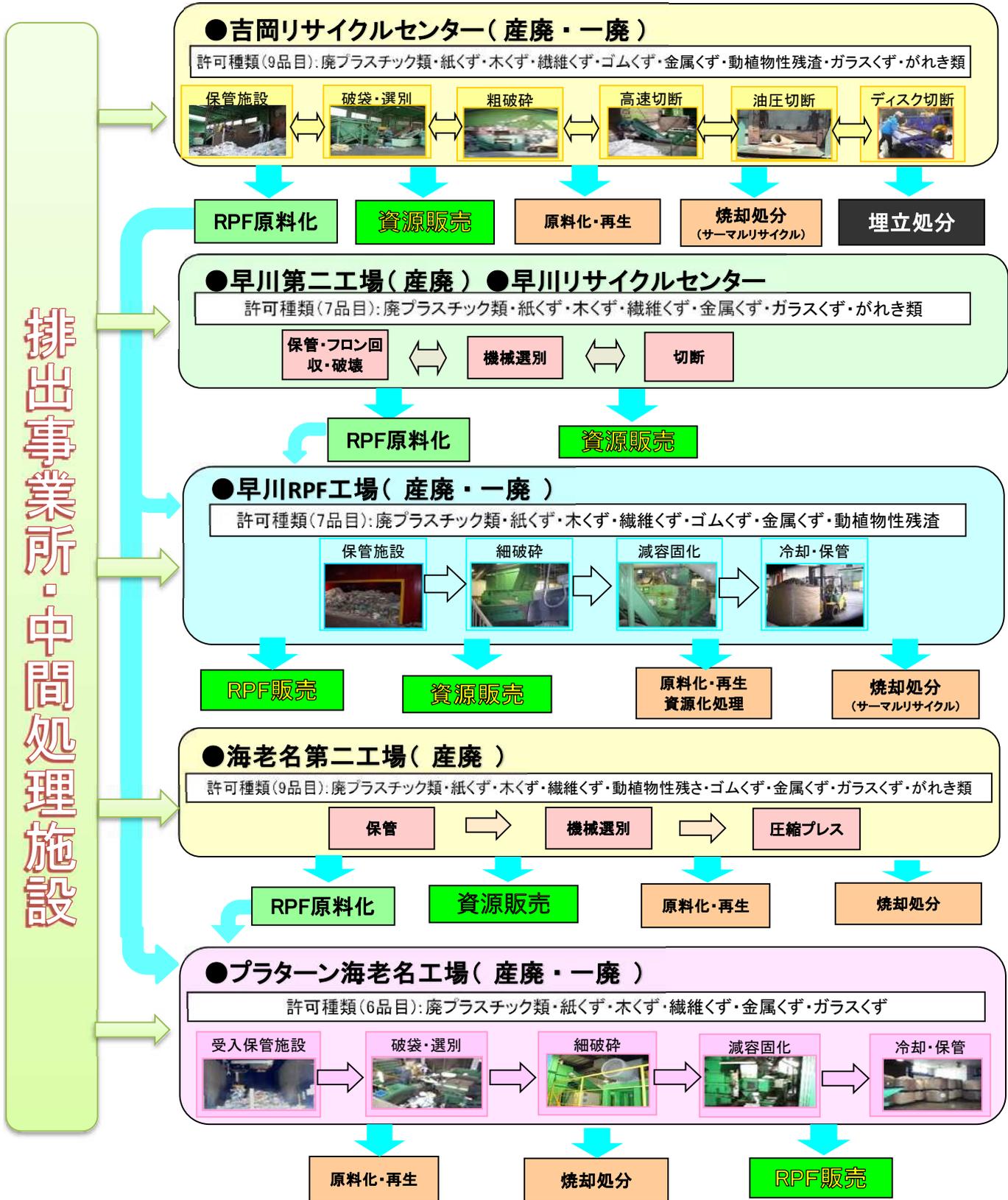
事業所名称	エンジンフォークリフト			バッテリーフォーク	ユンボ	ショベルローダー
	1トン	2トン	3トン			
早川RPF工場		1台		1台		
吉岡リサイクルセンター		1台	1台	1台	2台	1台
プラター海老名工場		2台				
海老名第2工場				1台	1台	
早川第2工場		1台	1台		1台	
早川リサイクルセンター	1台					



1. 会社概要

8) 処理フローを図2に示す。

図2 処理フロー図（社内処理相関図）

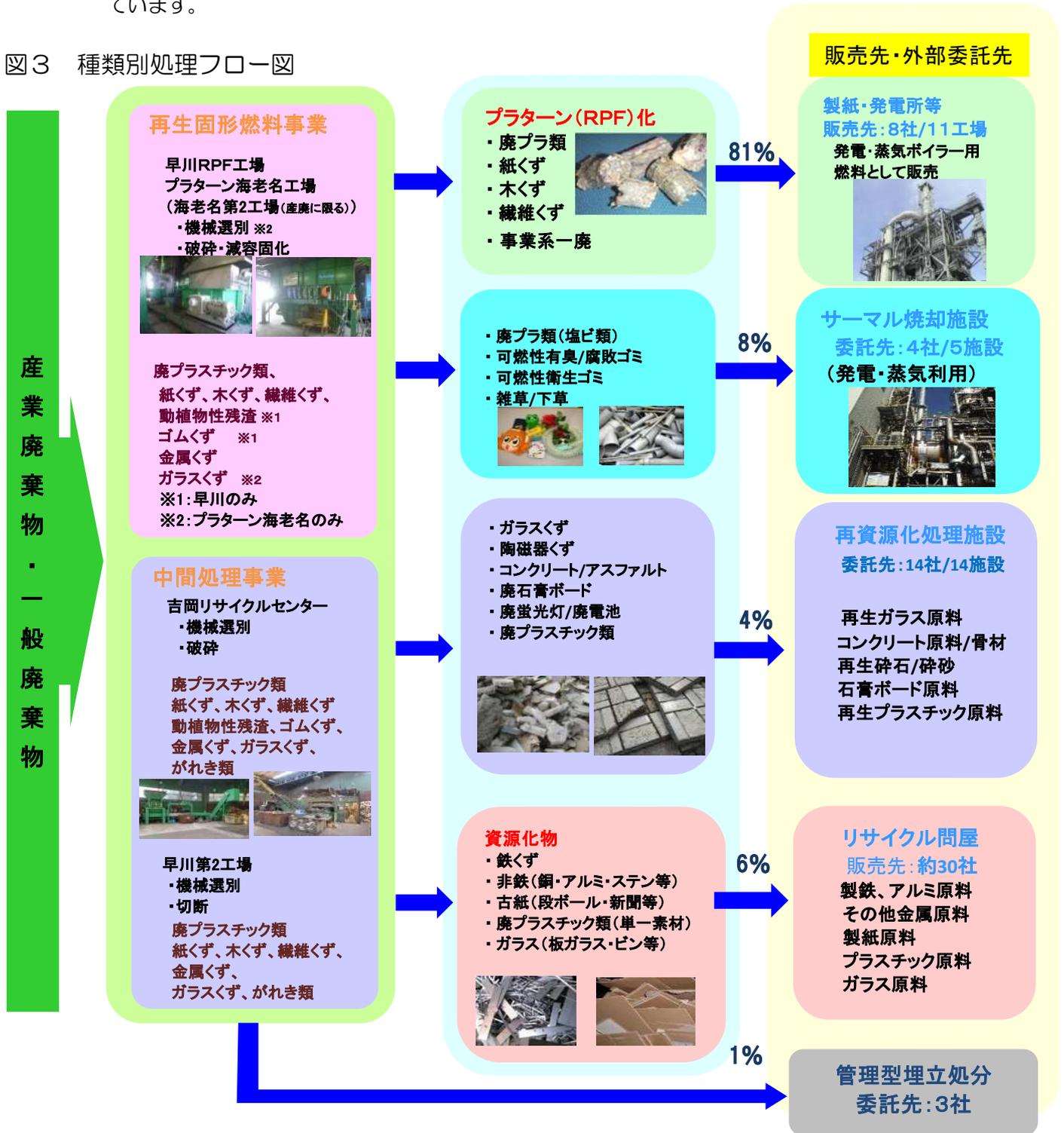


1. 会社概要

9) 種類別処理フローを図3に示す。

排出事業者から処理を受託した様々な廃棄物は、お客様の要望を踏まえ、再生資源化・燃料化を行っています。処理の出来ないものに関しては、環境負荷の少ない方法で外部委託処理を行っています。

図3 種類別処理フロー図



1. 会社概要

1.1) 廃棄物収集運搬車両の環境性能

- ・低排出ガス規制適合については表8に、低燃費車導入については表9に示す。

表8 廃棄物収集運搬車に係る低排出ガス車の導入状況

収集運搬車の排ガスレベル	台数（比率）		【参考】台数（比率）	
	R6年3月末時点		H24年3月時点	
全保有台数	30台	(100%)	19台	(100%)
①平成15年規制適合車	0台	(0%)	1台	(5%)
②平成17年規制適合車	2台	(7%)	4台	(21%)
③平成17年基準低排出ガス車50%低減 ☆☆☆	1台	(3%)	0台	(0%)
④平成17年基準低排出ガス車 ☆☆☆☆	0台	(0%)	0台	(0%)
⑤平成17年基準低排出ガス（PM10%低減）重量車 ☆	0台	(0%)	2台	(11%)
⑥平成17年基準低排出ガス（Nox及びPM10%低減）重量車 ★	0台	(0%)	1台	(5%)
⑦平成19年規制適合車	1台	(3%)	0台	(0%)
⑧平成22年（ポスト新長期）排出ガス車	4台	(13%)	0台	(0%)
⑨平成21年基準低排出ガス車10%低減☆☆☆	4台	(13%)	0台	(0%)
⑩平成22年基準低排出ガス車10%低減	9台	(30%)	0台	(0%)
⑪平成28年規制適合	9台	(30%)	0台	(0%)
低排出ガス車以外の車両	0台	(0%)	11台	(58%)

表9 廃棄物収集運搬車に係る低燃費車の導入状況

収集運搬車の燃費低減レベル	台数（比率）		【参考】台数（比率）	
	R6年3月末時点		H24年3月時点	
全保有台数	30台	(100%)	19台	(100%)
平成22年度燃費基準達成車	① —	0台 (0%)	1台 (5%)	
	②5%低減レベル	0台 (0%)	0台 (0%)	
	③10%低減レベル	0台 (0%)	0台 (0%)	
	④15%低減レベル	0台 (0%)	0台 (0%)	
	⑤25%低減レベル	0台 (0%)	0台 (0%)	
平成27年度燃費基準達成車	⑥ —	20台 (66.7%)	2台 (11%)	
	⑦ 5%低減レベル	7台 (23.3%)	0台 (0%)	
	⑧10%低減レベル	3台 (10.0%)	0台 (0%)	
低燃費基準達成車以外の車両	0台	(0.0%)	16台	(84%)

* 廃棄物の運搬車両は排ガスレベル・低燃費基準達成の車のみになりました。

* 昨年度より車両の入替はありませんが、納車まで1年以上かかることもあるため車両が使えなくなる前に発注をかけていくように予定していきます。

2. 事業実績の推移

受託廃棄物の処理量と資源リサイクル量を表10に示す。

表10 受託廃棄物の処理量 及び資源リサイクル量

(単位：t)

廃棄物の種類		2021年度	2022年度	2023年度	
収集運搬量	一般廃棄物収集運搬量	1,757	1,658	1,241	
	産業廃棄物収集運搬量	7,122	7,305	9,624	
	収集運搬合計	8,879	8,962	10,866	
中間処理 処分量	一般廃棄物処分量	固形燃料化・選別	2,040	2,076	2,287
	産業廃棄物処分量	機械選別・破碎 ・減容固化	14,773	14,667	15,056
	処分量合計		16,813	16,743	17,343
再資源化	再生固形燃料出荷量	固形燃料化量	12,442	12,404	13,109
	古紙出荷量	機械選別/再資源化	6	5	5
	鉄・非鉄原料出荷量	機械選別/再資源化	1,198	1,093	1,030
	木チップ原料出荷量	機械選別/再資源化	0	0.0	0.0
	プラスチック出荷量	機械選別/再資源化	10	52	5
	再資源化合計		13,656	13,554	14,149
	資源リサイクル量				
	古紙類（処理後再生分含む）	1,587	1,504	1,392	
	鉄原料（処理後再生分含む）	1,111	1,343	1,165	
	非鉄原料（処理後再生分含む）	832	694	806	
	ガラス原料（処理後再生分含む）	137	145	111	
	再生プラスチック原料（処理後再生分含む）	84	135	108	
	資源リサイクル量合計	3,751	3,822	3,582	
コメント	2023年度は、RPF取扱量を増やすために、今まで外部委託していた廃棄物から自社で扱えるものがないかを各工場間で取組んだ結果、固形燃料出荷量が目標の13,000 tを超える結果となりました。尚、資源リサイクル量は、昨年度スポット案件で扱い量が多かった事もあり、本年度は全体的に低くなっている状況です。				

3. 経営環境目標

3.1 中期環境経営活動目標（3カ年）

持続可能な社会実現に向けて、廃棄物の再資源化を推進し、化石燃料を代替するSRF※（再生固形燃料）の製造販売を拡大、サプライチェーンを通じて地球温暖化対策を推進します。活動目標については表11に示す。

表11

項目	年度		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
			基準値	目標	目標	目標	
1	2025年度までに、全社再資源化量を15%アップする <基準年：2022年度>	全社 再資源化量 (年間合計量)	t	2,088/年	5%アップ 2,192/年	10%アップ 2,297/年	15%アップ 2,401/年
		全社 再資源化量 (月平均値)	t	174/月	183/月	191/月	200/月
2	2025年度までにRPF (再生固形燃料)を15,000 ト/年 製造出荷する	プラターン出荷量 ※出荷使用されてCO ₂ 削減効果 が上がる	t	12,404	13,000	14,000	15,000
		プラターン出荷量 (月平均値)	t	1,034/月	1,083/月	1,167/月	1,250/月
3	Scope1 2025年度までに 化石燃料由来の地球温暖化 ガスを原単位で3%削減する ように取り組む	化石燃料由来 CO ₂ 排出量	t-CO ₂	483,555	507,733	531,911	556,088
		取扱量1ト当たりの CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /t	27.8	(1%削減) 27.5以下	(2%削減) 27.2以下	(3%削減) 27.0以下
4	Scope2 2025年度まで に購入電力由来の地球温暖 化ガスを原単位で3%削減す るように取り組む	電力由来 CO ₂ 排出量	t-CO ₂	944,324	989,698	1,038,756	1,141,959
		取扱量1ト当たりの CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /t	54.3	(1%削減) 53.7以下	(2%削減) 53.2以下	(3%削減) 52.7以下
5	RPF使用により削減出来た 燃料重油量	燃料重油 削減量	Kℓ	8,670	9,087	9,786	10,485
6	燃料重油削減により排出抑 制出来たCO ₂ 排出削減量	CO ₂ 排出削減量	t-CO ₂	24,697	25,884	27,875	29,866
7	実質 CO ₂ 排出削減量の増大 6項のCO ₂ 排出削減量から、3項4項 の事業由来のCO ₂ 排出量を引いた量	実質 CO ₂ 排出削減量	t-CO ₂	23,269	24,387	26,304	28,168

以下の4項目は、数値目標の設定をおこなわない。ただし、環境影響度の高い重要項目として

数値監視し、必要に応じ対策を実施する。表12に示す。

表12

監視4項目	監視内容	2023年度～2025年度
1	自社廃棄物の管理	自社廃棄物の分別を徹底して、焼却向け排出量が増加しないようにする
2	グリーン購入（環境負荷の少ない）を推進する	事務用品の購入金額を月次で計上し、グリーン購入比率60%以上を維持する
3	上水使用量を監視する	各部署で水の使用料を計上・監視して、数値のブレがあれば、原因追及して対処する
4	化学物質排出量を把握する	自社の事業において、化学物質は使用していない

3. 中期環境経営活動目標（3カ年）

3.2 2023年度活動計画

以下に、活動項目を明示する。各部門は、年度計画表に目標を設定し、月次で推移を確認し2025年度で達成度を評価する。表13に示す。

表13 環境活動計画取組表

	活動項目	管理及び実施項目	推進部門
1	2022年度より、全社再資源化量を5%アップする <基準年：2022年度>	<ul style="list-style-type: none"> 選別作業の効率化の推進 資源化物の知識習得 効率的な解体作業 顧客への質上げ提案 部署間の協力 	営業 業務課（※） 吉岡 早川第2（※） 早川・海老名
2	2023年度、RPF（再生固体燃料）を13,000ト/年 製造出荷する	<ul style="list-style-type: none"> 焼却向け廃棄物からの燃料化 効率的な選別作業の追求 品質規格に合った原料の管理 発熱量低下対応の廃プラ集荷の強化 新たな燃料品種の検討 顧客の要望を適える営業力強化 少量排出者に対する対応 	営業 業務課 吉岡（※） 早川第2 早川・海老名（※）
3	Scope1 化石燃料由来の地球温暖化ガスを2022年度より原単位（取扱量1ト/当り）で1%削減する 目標値：27.5 kg-CO ₂ /ト以下	<ul style="list-style-type: none"> 車輛毎の燃費の監視 確実な車輛点検・適切な対処 効率的な回収方法の検証 重機・フォークリフト作業の無駄の排除 バッテリーフォークリフトの導入推進 	営業 業務課（※） 吉岡 早川第2 早川・海老名
4	Scope2 電力由来の地球温暖化ガスを2022年度より原単位（取扱量1ト/当り）で1%削減する 目標値：53.7 kg-CO ₂ /ト以下	<ul style="list-style-type: none"> RPF製造時の電力使用量（デマンド）の監視 機械設備管理（消耗品交換等）の徹底 過負荷停止の削減 無駄な電気をしない（消灯・停止等） 健康を留意した空調機器の温度設定 太陽光発電の導入（再エネ導入） 	吉岡 早川第2 早川・海老名（※） 総務 管理
7	実質 CO ₂ 排出削減量の増大 RPF事業によるCO ₂ 排出削減量から、事業由来のCO ₂ 排出量を引いた削減量	<ul style="list-style-type: none"> 2項のRPFの出荷量を増加して、サプライチェーンでのCO₂排出量の削減 3項の化石由来の原単位当りのCO₂排出量の削減 4項の電力由来の原単位当りのCO₂排出量の削減 	全部門

※：各活動項目に対する主管部門

以下の4項目は、数値目標の設定をおこなわないが、環境影響度の高い事項として、各部門で監視項目とする。

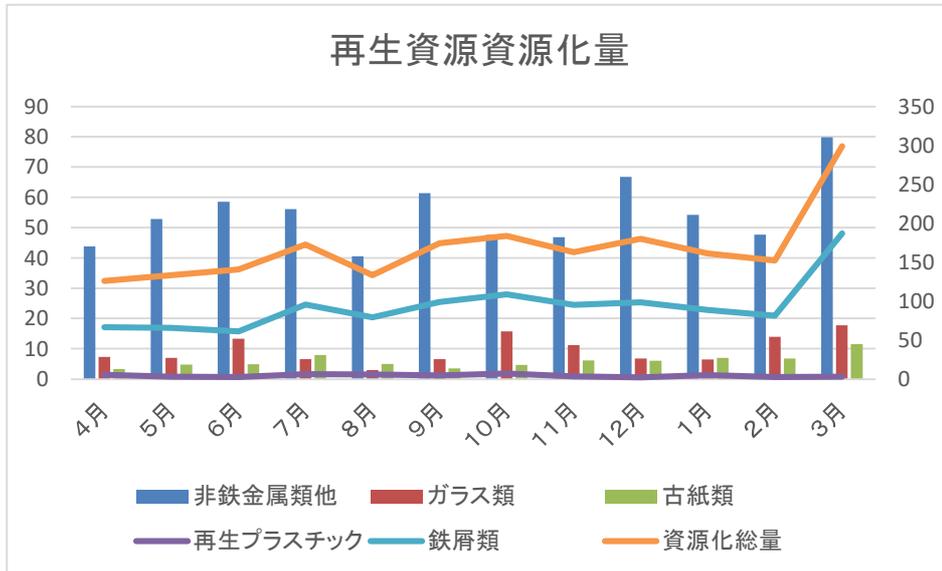
1	自社廃棄物の管理	自社廃棄物の分別を徹底して、3.5kg/月平均を超えないように監視する	全部署
2	グリーン購入（環境負荷の少ない）を推進する	事務用品は、月次で購入金額を計上して、グリーン購入比率60%以上を維持する	全部署
3	上水使用量を監視する	上水使用量は、適切な機能を維持し無駄な使用が無いように監視し、異常があれば対処する	全部署
4	化学物質排出量を把握する	自社の事業において化学物質は使用していないが、購入塗料等に含まれるVOCの量を把握する	全部署

3.3 2023年度活動実績

- 2025年度までに、全社再資源化量を15%アップする。
 2023年度目標：2022年度基準に5%アップ（2,192t/年）
 ⇒ 95.6%(▲172t)となり、未達成でした。



図4

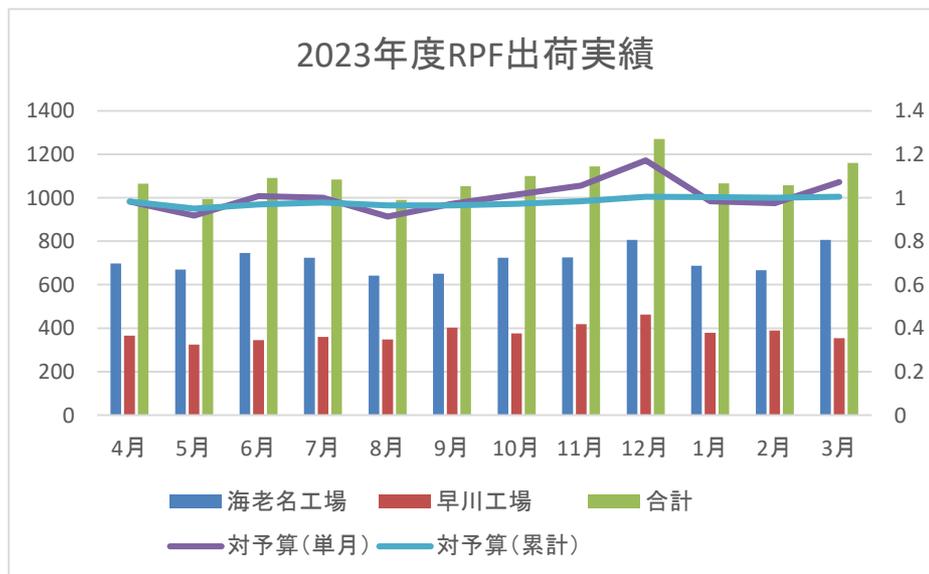


ペットボトルにおいては処理費用の安価な業者に流れた事も要因として挙げられます。尚、40期は飲料抽出残朝の回収量が増加し、堆肥への再資源化が増加しております。41期の指標の見直しを検討致します。【推進部門 業務課】

- 2025年度までに製造出荷量を15,000 tにする。
 2023年度目標：13,000 t RPF出荷実績グラフ
 ⇒ 101%の結果となり、目標達成出来ました。



図5



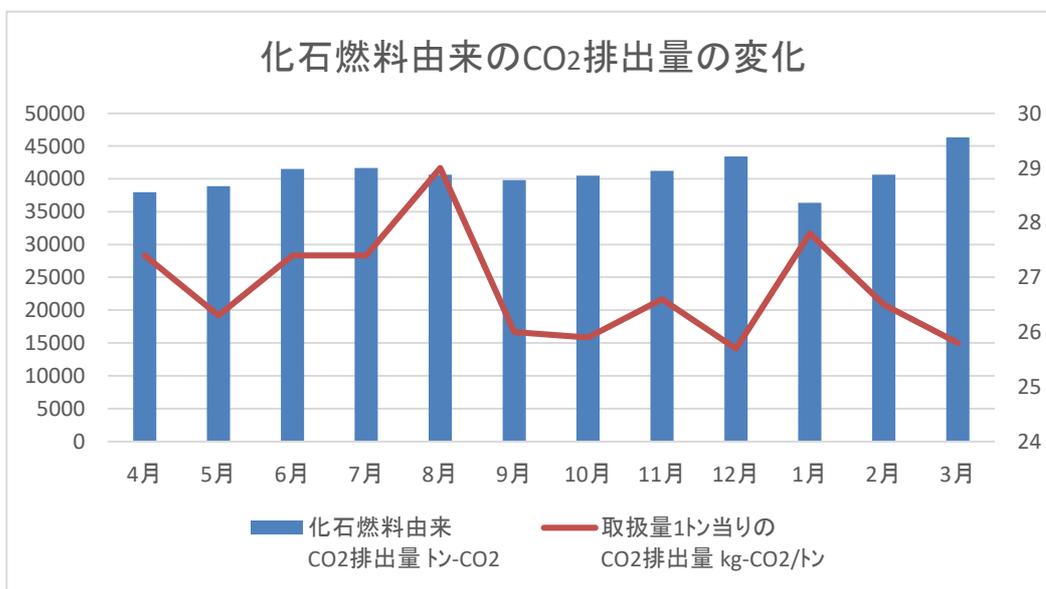
状況としましては、RPF生産に使用する原料確保を上げる為の改善チームを結成しました。吉岡RCに集荷される焼却処分向けの廃棄物から、燃料化出来る物を選別し燃料として使用。又、廃棄物の性状に合わせた使用(原料化)も取入れ、目標達成する事が出来ました。【推進部門】吉岡・早川・海老名

3.3 2023年度活動実績

3. Scope 1 2025年度までに化石燃料由来の地球温暖化ガスを原単位で3%削減する
 2023年度目標：1%削減 27.5kg-co2/t以下
 ⇒ 97.5%の結果となり、目標達成出来ました。



図6

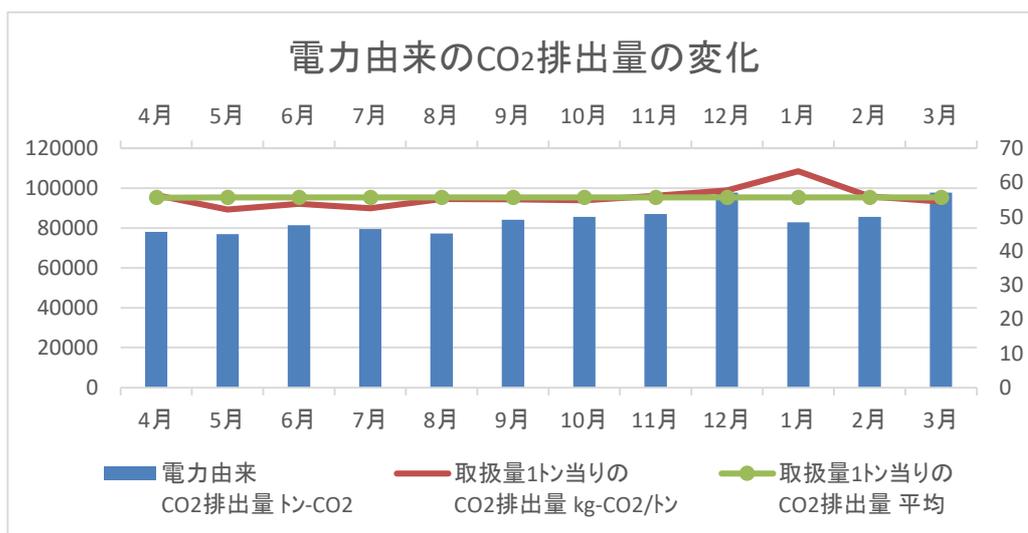


化石燃料の取扱い量は増加しましたが、効率の良い収集運搬と処理が出来た事により原単位では削減する事が出来ました。 【推進部門】 業務課

4. Scope 2 2025年度までに購入電力由来の地球温暖化ガスを原単位で3%削減する
 2023年度目標：1%削減 53.7kg-co2/t以下
 ⇒ 55.6kg-co2/t となり、未達成でした。



図7



電力使用量の多いRPF工場での生産量Up(対前年106%)に伴う、生産時間の増加が影響しました。工場での節電効果が実らない結果であり、設備の保守点検及び更新も含め、再検討します。 【推進部門】 早川・海老名

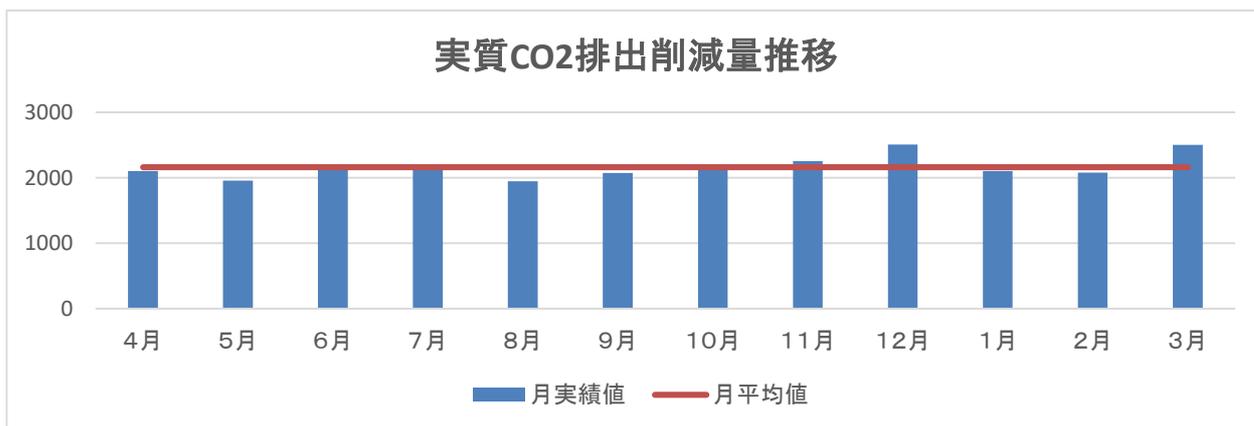
3.3 2023年度活動実績

5. 実質 CO₂排出削減量の増大

弊社ではサプライチェーン全体でGHG排出量を効果的に削減することを目標に取り組んでいます。

廃棄物を資源原料にするマテリアルリサイクルは優先的に行いますが、原料化できない可燃性廃棄物から化石燃料使わないエネルギーリカバリー（燃料化）を行い、カーボンニュートラルに貢献する取り組みを行っています。

図8



今期、製造したRPFを重油に換算した量は9,163KLになり、排出抑制出来たCO₂は27,307 CO₂ tとなります。自社活動で発生したスコープ1,2のCO₂排出量は1,502CO₂ tで差し引くと25,805 CO₂ tとなりました。

中期目標 2023年度目標値 24,894 t-CO₂ (月平均19,369 t-CO₂)

⇒ 25,804 t-CO₂ 目標達成出来ました！

【推進部門】全部門



※サプライチェーンの比較イメージ

○化石燃料を使用するには海外から輸入し製油所で製油しタンクローリーで需要家まで運ぶ



製紙工場発電ボイラーで使用



原油精製をして重油を製造し工場に運搬



原油タンカーで日本へ



海外油田で原油を採掘

○国内で廃棄される原料から少ない電気とエネルギー再生固形燃料が出来て温暖化ガスが削減できる



製紙工場発電ボイラーで使用



RPFを運搬



廃棄物からRPFを製造



廃棄物を収集運搬

3.4 小集団活動(Bottom Up型)を取り入れた改善活動実績

テーマ：2023年度 RPF13,000 t 出荷
メンバー：7名（全部門より1名参加）
打ち合わせ回数：1回/隔週（2時間以内）

RPF:13,000 t 出荷の目標は、工場だけのテーマではないことを認識する。

***問題意識を共有する！**

全部門でテーマ達成に向けた課題を共通認識し、解決に向け取り組みました。

***3元主義で確かめる！ なぜ・なぜの繰り返し！**

目標達成することで、皆で成果を分かち合えました。

***2024年度：14,000 t 出荷達成を目指します！**

選別作業の恒常化



原料化できないと判断されてきた資源



RPFの原料は大別すると、工場に直納されるものと、吉岡RCに一旦貯蔵され工場に出荷されるものに分けられます。今回の活動としては、吉岡RCに貯蔵された焼却処分向け廃棄物から原料化できるものを抜取る作業(選別)を型通りに行う事と、原料としては使えないと判断されてきたものに対し、再度工場を確認し、原料化の可否を調査致しました。



塩ビチェッカー



PE（燃焼試験
→燃え易い）



PVC（燃焼試験
→燃えにくい）

取引先から排出される網戸から塩ビチェッカーを使用し、燃料になる素材のものを取り除き、燃料化へ取り組みました。

3.4 小集団活動(Bottom Up型)を取り入れた改善活動実績

改善効果としましては、選別効率の改善により、搬入物からRPFの原料として使用される資源量を増加させる事ができました。(対前期平均で6%向上) また、相乗効果としましては、焼却処分量(費用)も減少させることが出来ました。(対前期平均で5%減少)

図9 RPF出荷量

単位：Kg

*	吉岡搬入量	SRF出荷量	比率
39期平均	1,623,819	1,027,071	63.3%
Q1	1,620,230	1,028,548	63.5%
Q2	1,617,660	952,640	58.9%
Q3	1,746,200	1,181,630	67.7%
Q4	1,663,030	1,154,170	69.4%
4月	509,570	340,698	66.9%
5月	532,180	316,400	59.5%
6月	578,480	371,450	64.2%
7月	554,340	320,390	57.8%
8月	513,940	310,170	60.4%
9月	549,380	322,080	58.6%
10月	569,500	373,230	65.5%
11月	590,560	397,850	67.4%
12月	586,140	410,550	70.0%
1月	427,700	321,800	75.2%
2月	589,370	405,410	68.8%
3月	645,960	426,960	66.1%



図10 焼却処分量

単位：Kg

*	吉岡搬入量	焼却処分量	比率
39期平均	1,623,819	310,794	19.1%
Q1	1,620,230	371,540	22.9%
Q2	1,617,660	336,680	20.8%
Q3	1,746,200	276,610	15.8%
Q4	1,663,030	232,300	14.0%
4月	509,570	126,520	24.8%
5月	532,180	123,910	23.3%
6月	578,480	121,110	20.9%
7月	554,340	111,810	20.2%
8月	513,940	124,640	24.3%
9月	549,380	100,230	18.2%
10月	569,500	101,570	17.8%
11月	590,560	99,090	16.8%
12月	586,140	75,950	13.0%
1月	427,700	70,870	16.6%
2月	589,370	67,470	11.4%
3月	645,960	93,960	14.5%



4. 「プラターンの森計画」実績報告

タズミが推進する再生固形燃料（RPF）化について

※「プラターン」は、タズミ製固形燃料の商品名です

図11



【焼却ごみのうち1トンをプラターン(再生固形燃料)に加工すると】
 その熱量は重油700ℓ分に相当します。上図の減った煙1つは、重油700ℓの燃焼で発生する約2トンのCO₂です。一方、1年間に2トンのCO₂を吸収固定する杉林の面積は約2,100㎡で、その杉の本数は約200本になります。

つまり、焼却ごみから1トンのプラターンを製造・利用することは、2,100㎡の杉林（200本の杉の木）を1年間保全したのと同じ効果がある事になります。この仮想の森を維持拡大することが「プラターンの森計画」であり、当社の燃料化事業の環境効果です。

- 2023年度の《プラターンの森》は
- ★プラターンの出荷実績：13,068 トン（重油換算 9,148 kℓ）^④
 - ★排出抑制されたCO₂二酸化炭素は、26,019トン-CO₂
 - ★プラターンの森の広さは、27.4km²、杉の本数では約260万本でした

④ プラターンの森では、プラターン出荷(販売)実績数量で計算していますが、環境活動では生産数量を使用しているため、森の面積やCO₂排出抑制量等で、表現数値に違いが出ます。



5. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規等の遵守状況の確認

2024年5月1日 確認

○環境関連法規のチェック

表14

法令等名称	適用項目	主な要求内容	前回確認からの変更点	評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	許可の更新・変更	5年毎の許可更新 (優良は7年)	今期は神奈川県処分業、茨城県収集運搬業の許可更新作業があったが問題なく更新申請が完了しました。	
騒音規制法・振動規制法・悪臭規制法・神奈川県生活環境保全条例	騒音・振動・悪臭の規制基準の順守	指定地域内によりその場所ごとの規制基準値を超えないようにする。	騒音・振動・臭気についての基準はすべてクリアしました。来期以降も年に一度の検査を行っていきます。	

○その他の環境法令チェック

法令違反はありませんでした。

○環境法令以外の法令チェック

○労働安全衛生規則の一部改正 昇降設備の設置・テールゲートリフター作業の特別教育を行いました。

詳細については環境レポートP22を参照。

○タコグラフによる運行記録の義務化

廃棄物を輸送中、警察より注意で平成29年（2017）4月1日より、車両総重量7トン以上最大積載量4トン以上の車両はタコグラフの運行記録が義務付けられました。

弊社では、紙製円形タコグラフで運行記録の確認を行なっています。

○アルコール検査の義務化

2023年12月より、アルコール検査器を使用しての記録をつけることが義務化されました。

弊社では、2022年4月より検査器を使用しての点検を行っています。

環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

法令違反・訴訟等はありませんでした。

その他、事業活動に伴う環境クレーム及び周辺住民からの情報提供

○国道246へ出る道路のトラック通行に関する情報

地域住民より、弊社トラックが国道246号線に繋がる道路を走行する際、振動による影響で不安があるとの情報を受けました。

当情報に基づき、弊社にて調査した結果、該当道路での道路交通法を逸脱した通行（大型車通行制限

・制限速度30km/h）等は確認されませんでした。しかし、地域住民からの情報と不安の解消を

優先し、弊社としては該当道路を通行しないように周知徹底し、地域住民への配慮を致しました。



6. 環境測定結果

- 騒音・振動測定：吉岡リサイクルセンター・早川IRPF工場・早川第二工場・プラターン海老名工場 1回/年 実施
- 臭気測定：早川IRPF工場・プラターン海老名工場 1回/年 実施



2023年度 環境測定記録・結果

いずれの事業所も規制値をクリアしています。

表15

吉岡リサイクルセンター 騒音・振動		破砕施設		高速切断施設		油圧切断施設	
		前期	今期	前期	今期	前期	今期
2023/5/26実施	騒音規制値 55dB以下	51	52	54	49	47	48
	振動規制値 65dB以下	30	30	47	47	48	49

早川IRPF工場 騒音・振動		成形施設		破砕施設A		破砕施設B	
		前期	今期	前期	今期	前期	今期
2023/5/25実施	騒音規制値 75dB以下	73	72	63	72	65	64
	振動規制値 70dB以下	63	62	65	69	68	63

早川IRPF工場 臭気		脱臭排気施設		溜水式集塵施設	
		前期	今期	前期	今期
2023/5/22実施	臭気規制値 35以下	21	29	14	24

早川IRPF工場 臭気（敷地境界）		敷地境界	
		前期	今期
2023/5/22実施	敷地境界規制値 15以下	10未満	10未満

プラターン海老名工場 騒音・振動		選別施設		破砕施設		成形施設	
		前期	今期	前期	今期	前期	今期
2023/5/24実施	騒音規制値 75dB以下	62	69	68	70	54	63
	振動規制値 70dB以下	57	57	56	68	56	62

プラターン海老名工場 臭気		排出口①		排出口②		排出口③		排出口④	
		前期	今期	前期	今期	前期	今期	前期	今期
2023/5/29実施	臭気規制値 30以下	12未満	12	12未満	19	12未満	15	12未満	12未満

プラターン海老名工場 臭気（敷地境界）		敷地境界	
		前期	今期
2023/5/29実施	敷地境界規制値 15以下	10未満	10未満

各工場設備の老朽化は進んでいるものの、規制値を上回ることはありませんでした。今後設備の改善も行って、環境へ配慮した運営を行っていきます。



7. 2023年度の取組結果とその評価、及び前回代表者による見直しと取組み結果

環境活動計画の取組結果とその評価
取組結果を表16に示す。

達成度
○：取り組み、目標達成
△：取り組んだが目標未達成
×：取り組めなかった

表16

項目	達成度	プロセス評価
2022年度より、全社再資源化量を5%アップする <基準年：2022年度>	△	目標未達；資源化量は3.5%減となってしまった。全品種において同じように減少した。ペットボトルについては処理費が安い業者に変更される。新たに飲料抽出残渣の回収が増え堆肥化が増えているので指標の見直しを検討したい。
Scope1 化石燃料由来の地球温暖化ガスを2022年度より原単位（取扱量1ト当たり）で1%削減する 目標値：27.5 kg-CO ₂ /ト以下	○	目標達成；焼却対象物からの燃料化推進するPJを部門連携して行うことより、より多くの燃料化につなげることが出来た。廃棄物の性状にあった処理方法等も検討した。
Scope2 電力由来の地球温暖化ガスを2022年度より原単位（取扱量1ト当たり）で1%削減する 目標値：53.7 kg-CO ₂ /ト以下	△	目標未達；電気使用量の多いRPF工場で生産量の増加があり使用量が増加した。生産量当たりの原単位の微増の影響が大きく出てしまった。
RPFを使用することで削減できた化石由来の地球温暖化ガスの削減量	○	年間27,307CO ₂ トンとなり、大きな成果に繋がっている。自社活動で発生した分を差し引いた量は25,805CO ₂ トンで事業活動で発生するCO ₂ の1.7倍の削減効果がある。
グリーン購入の推進	△	リスト対象品を確実に購入していたが、管理表への入力ミスが生じていました。

表17

前回代表者による見直しと取組み結果		
a)	現在の搬入物からの焼却外注量削減・燃料化量増大や、同業者や排出事業所の焼却廃棄物案件の、燃料化処理受託増大に取り組んで下さい。また、現在増加している剪定枝や雑草等の廃棄物により水分過多・発熱量減少・成形性悪化等の影響に対して、廃プラスチック類を増加する為の営業提案・分別収集・古岡選別方法・RPF製造技術の検証改善をして、燃料化量増大に取り組んで下さい。	各部門から選任されたメンバーでRPF推進プロジェクトを立ち上げた。社員が主役になって小集団活動を行うことで、目的達成のために協議し実行し自分事にして成果に繋げることが出来た。PJでは各部署で出来ることを洗い出し、数値化して成果を毎月確認する会議体を設けた。数値化の中には、焼却出荷量・RPF原料化量・RPF出荷量に加え、経費も見ることによって収支の改善成果の可視化ができ、取り組みにも一層のモチベーションとなった。
b)	「運搬1ト当たりのCO ₂ 排出量」と「RPF化1ト当たりのCO ₂ 排出量」のデータに加え、「RPF1トの使用（出荷量）による石油使用量削減で抑制出来たCO ₂ 排出量」（CO ₂ 排出削減量）データを監視検証して、再生固形燃料RPF生産量の増大に取り組んで下さい。	環境経営目標計画に取り入れた。温対法の中でも温暖化ガス削減のためにRPFの利用促進を行い、化石燃料を代替することが求められている。当社が活動したい年間で化石燃料（重油換算）を9,163kL削減でき、CO ₂ 排出量は27,307トン排出抑制することが出来た。又、RPFの利用先のほとんどは製紙会社であることから、RPFを燃焼して発生した蒸気で発電と熱回収を同時に得るコージェネレーション施設、効果的な利用になった。
c)	燃料化リサイクルと共に重要な、資源化リサイクル（古紙・金属・非鉄金属・貴金属・ガラス屑・プラスチック等）の増大にも各部門で取り組んで下さい。	資源化リサイクルについては、リサイクルできるものは従前どおり積極的に取り組んだ。数量的には受注にも影響が出てしまうが、早川第2の機能を活用し資産廃棄など効率的かつ処理費用を低減する形の提案を行い受注につなげている。引き続き既存顧客様への提案も含め来期も取り組んで行けるよう工夫が必要である。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

1) 全体評価

今回の評価結果及び指示内容等

①評価の結果

- A) 再資源化リサイクルの推進では、非鉄金属は前期比で5,488kg増加・1%アップしましたが、古紙・鉄屑がほぼ増減なしで、廃プラスチック類は約4割減少しました。単価は上昇したので再生資源の売上高はアップしました。そして、再生資源化リサイクルに対しては、増加させる為の具体的な取組み計画が出来なかったように感じられました。
- B) RPF燃料化の推進では、プラターン出荷量が、目標の13,000 tに対して13,109 t（705 t増量・5.7%アップ）で、見事目標を達成しました。プラターン生産量は13,496 tで815 t増加・6.4%アップ、搬入量は14,190 tで680 t増加・5.0%アップしました。搬入量では、同業者が424 t増加・7.5%アップで、吉岡RCもRPFプロジェクトの効果で下半期の焼却処分からの燃料化量が増え、20 t増加・5.0%アップしました。また業務課は回収段階での分別強化を、早川第2工場では作業方法の改善でSRF原料化に取り組み、前期比で何れも増加しました。
- C) Scope1：化石燃料由来の取扱量1トりのCO₂排出量目標 27.8kg/トに対して 26.8kg/トで減少しました。
Scope2：電力由来の取扱量1トりのCO₂排出量目標 54.3kg/トに対して 55.6kg/トで増加しましたが、実質 CO₂排出削減量（SRF燃料使用に伴う 燃料重油削減によるCO₂排出削減量から、Scope 1・2の事業由来のCO₂排出量を引いた量）は、基準年2022年実績値：23,269トに対して 25,804トで増大し温暖化ガス排出抑制に貢献しました。

※ 監視項目のグリーン購入では、事務系の消耗品や備品の他に、CO₂の排出量が少ない電気自動車BYDを購入しました。

2) 指示内容

- a) スクラップや古紙が多量発生する事業者は、昔からの取引業者があると思われます。しかし廃棄物しか発生しない事業者は機械の入替えや除却する時には、その処分先に困っていると推察出来ます。弊社創業者の田墨幸夫は、リヤカーひとつで資源回収業から始めました。良いものや大量発生する資源は、既に多くの業者が取り扱っています。付着物や混合物、少量やたまにしか出ないような案件にも目を向け、再資源化リサイクル量の増大目標に取り組んで下さい。また、収集運搬で資源問屋に直送する案件のデータも基準年を含めて追加して下さい。
- b) 41期のRPF出荷量14,000トの目標達成は非常に困難だと思われます。生産工場部門として営業担当を任命しました。営業戦略を立てて目標に向けて取り組んで頂きたいと思います。業務課は、引取り時に 排出事業所の要求や状況を聞き取り把握して、また吉岡RCは搬入する同業者や排出事業者の要求や状況を聞き取り把握して、営業への報告を徹底し、営業は排出事業所現場や現物の確認を行ない、お客様と弊社と社会の三方良しに取組みRPF出荷量の目標を達成して頂きたいと思います。早川第2工場は、他社では処分費が嵩むリスクがある「金属に付着がある物」の燃料化等で優位性を発揮して、燃料化と再資源化物の目標達成に引き続き取り組んで頂きたいと思います。
- c) Scope1：化石燃料由来の取扱量1トりのCO₂排出量は、廃棄物や資源物の引取りや出荷の収集運搬業務の運搬効率に影響されます。軽い物の運搬が増えれば悪化しますし、遠距離の運搬が増えても悪化します。取組みの本質は収集や出荷の運搬効率のアップです。運搬効率改善の成果案件も併せて報告出来ないか検討願います。

Scope2：電力由来の取扱量1トりのCO₂排出量は、海老名工場・早川工場の生産効率に影響され、吉岡RCの破碎設備や切断設備の処理効率に影響されます。今後もプロセスリターンの削減や生産効率の維持向上に取り組んで下さい。また、吉岡RCや早川第2工場では、コンプレッサーの空気漏れ等の無駄な電力消費がないか？破碎機や切断機への投入方法等で処理効率の改善の余地がないか等検証して目標達成に取り組んで下さい。

※ 日産リーフを含めた電気自動車の電気使用量や単位当りの走行距離、電気使用によるCO₂排出量等のデータも監視項目に追加して下さい。

3) 見直し結果

① 環境経営方針の変更の必要性

(有り) ・無し) 改善担当者：代表取締役 田墨幸一郎 期限：令和6年4月末

② 環境目標の変更の必要性

(有り) 無し) 改善担当者：環境管理責任者 田墨啓治 期限：なし

③ 環境活動計画等の変更の必要性

(有り) ・無し) 改善担当者：環境管理責任者 田墨啓治 期限：令和6年5月末



9. 2024年度環境活動目標・計画

以下に、活動項目を明示する。各部門は、部門ごとの「部門計画 実績表」に目標を設定し、月次で推移の確認を行い、達成度を評価する。（2024.4～2025.3の間）表18に示す。

表18 環境活動計画取組表

	環境活動目標	環境活動計画	活動部門
1	<p>基準年：2022年度より、全社再資源化量を10%アップする</p> <p>◆SDGs 12.2：2030年までに、天然資源の持続的な管理及び効率的な利用を達成する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 選別作業の効率化の推進・資源化物の知識習得 効率的な解体作業・顧客への質上げ提案 部署間の協力 付着物や混合物、少量案件の取組み 資源問屋に直送するデータの追加と検証 	<p>営業 吉岡RC (※) 業務課 (※) 早川第2 (※)</p>
2	<p>2023年度、RPF（再生固体燃料）を14,000ト/年 出荷する</p> <p>◆SDGs 7.2：2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 焼却向け廃棄物からの燃料化 効率的な選別作業の追求 品質規格に合った原料の管理 発熱量低下対応の廃プラ集荷の強化 新たな燃料品種の検討 顧客の要望を適える営業力強化 少量排出者に対する対応 RPF Projectで燃料化推進の継続的取組み 	<p>営業 吉岡RC (※) 業務課 早川・海老名 (※) 早川第2</p>
3	<p>Scope1 化石燃料由来の地球温暖化ガスを2022年度より原単位（取扱量1ト/当り）で1%削減する 目標値：27.2kg-CO₂/ト以下</p> <p>◆SDGs 7.3：2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 車輛毎の燃費の監視 確実な車輛点検・適切な対処 効率的な回収方法の検証 重機・フォークリフト作業の無駄の排除 バッテリーフォークリフトの導入推進 収集や出荷の運搬効率改善 	<p>営業 業務課 (※) 吉岡 早川第2 早川・海老名</p>
4	<p>Scope2 電力由来の地球温暖化ガスを2022年度より原単位（取扱量1ト/当り）で1%削減する 目標値：53.2 kg-CO₂/ト以下</p> <p>◆SDGs 7.3：2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる</p>	<ul style="list-style-type: none"> RPF製造時の電力使用量（デマンド）の監視 機械設備管理（消耗品交換等）の徹底 過負荷停止の削減 無駄な電気を使用しない節電（消灯・停止等） 健康を留意した空調機器の温度設定 プロセスリターン削減 時間当りの生産能力の改善 維持 	<p>吉岡 (※) 早川第2 早川・海老名 (※) 総務・管理</p>
7	<p>実質 CO₂排出削減量の増大 RPF事業によるCO₂排出削減量から、事業由来のCO₂排出量を引いた削減量 目標値：26,304ト-CO₂以上</p> <p>◆SDGs 13.3：2030年までに、気候変動対策を政策、戦略及び計画に盛り込む</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2項のRPFの出荷量を増加して、サプライチェーンでのCO₂排出量の削減 3項の化石由来の原単位当りのCO₂排出量の削減 4項の電力由来の原単位当りのCO₂排出量の削減 	<p>営業 吉岡RC (※) 業務課 (※) 早川・海老名 (※) 早川第2 総務・管理</p>

(※)は、各活動項目に対する主管部門とする。主管部門は毎月の部門会議にて、自部門 目標の実績を確認・検証する。

以下の4項目は、数値目標の設定をおこなわないが、環境影響度の高い事項として、各部門で監視項目とする。

1	<p>自社廃棄物の管理</p> <p>◆SDGs 12.5：2030年までに、廃棄物の発生を大幅に減らす</p>	<p>自社廃棄物の分別を徹底し、上限：3.5Kg/月を超えない様、管理する</p>	<p>全部門</p>
2	<p>グリーン購入推進</p> <p>◆SDGs 12.8：2030年までに、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする</p>	<p>事務用品のグリーン購入比率：60%を遵守する</p>	<p>全部門</p>
3	<p>上水使用量の継続監視</p> <p>◆SDGs 6.4：2030年までに、水不足に対処し水不足に悩む人の数を大幅に減らす</p>	<p>無駄な使用や、異常(水漏れ)の検出を監視する</p>	<p>全部門</p>
4	<p>化学物質排出量の監視</p> <p>◆SDGs 12.4：2030年までに、化学物質や廃棄物の適正管理により大気・水・土壌への放出を減らす</p>	<p>購入塗料や薬品に含まれるVOCを把握し、管理する</p>	<p>全部門</p>

10. 各部門 活動実績資料
10.1 教育訓練

●社内でテールゲートリフター特別講習を行いました。（収集運搬業務課 2023年12月）
労働安全衛生規則の改訂により、2024年2月からテールゲートの操作は特別教育の受講が必要となりました。
社内で外部講習を受けた方が主体となり、社内での教育を行いました。



また法改正に伴い、23年10月からは「昇降設備の設置」と「作業する際の保護帽の着用」が義務付けられたため、車両に昇降設備（可搬式足場台）を追加で設置、作業手順書への追記を行いました。荷下ろし時の安全確保に努めます。



可搬式足場台



昇降時に使用

●フォークリフト安全教育（海老名工場 2024年2月）
毎年、全国でフォークリフトの労働災害は多発しています。
労働災害を発生させない様、KY活動を含めたフォークリフト安全教育を実施しました。



2024年2月14日	フォークリフト安全教育	氏名:藤本 大
教育を受けての感想(理解できたこと、実践すること、そのほか要望など)を記入してください。		
運転時の死角、後方確認などの基本ルールの再認識が行った。 お互いのアイコンタクトが抜けてる時があったので 良い習慣を確実に伝える様になります。		

2024年2月14日	フォークリフト安全教育	氏名:森野 学
教育を受けての感想(理解できたこと、実践すること、そのほか要望など)を記入してください。		
・後方確認、声のかけ合い、意思の疎通を、しっかり行い、 見本となる行動もしています。 良い習慣を 実施出来る 工場を目指す。		

フォークリフト作業者は後方確認の遵守をお願いし、
作業員以外の作業員に対しても通行する際は
声掛けによる意思疎通の徹底を習慣化しました。
教育時は死角となる場所等を、実際に見てもらいながら
訓練を行いました。
来期も、定期的実施して安全運転に努めていきます。

10. 各部門 活動実績資料

10.2 緊急時の訓練

●初期消火訓練（海老名工場 2023年9月）

2022年に導入した消火バイパス設備を使用しての初期消火訓練

リチウムイオン電池の混入による火災リスクが高まっている中で、センサーによる自動消火設備は初期消火において重要となります。

自動消火後、二次災害とならない様に各設備の点検、確認まで対応出来る様に訓練を実施しました。

今後も、計画的に消火訓練を行っていきます。



消火活動



各設備の目視点検



避難後の総評

2023年9月13日	火災初期消火訓練	氏名: 藤田
教育を受けての感想(理解できたこと、実践すること、そのほか要望などを記入してください。)		
アラームが鳴る中での訓練だったので焦りはあつたが確認のポイント箇所は忘れず点検できました。出火発見者として火の出た報告が1回だけでした。間を逃げ方がいる可能性もある為、何度も発信するべきでした。		

2023年9月13日	火災初期消火訓練	氏名: 藤田
教育を受けての感想(理解できたこと、実践すること、そのほか要望などを記入してください。)		
今回は破砕室 炎センサーを感知させた訓練でリアリテのある訓練となり良かったです。改めて思ったのは1〜3階まで誰がどう動いているかは分かりづらいので、訓練を通じて各自の状況把握力と情報伝達に慣れるのが大事だと思いました。		

●設備の緊急停止スイッチの使用方法について訓練しました。（吉岡RC 2023年6月）

今年度新たに働くメンバーが加わり、自分の持ち場以外で機械の緊急停止を行う

必要があった際の動作が出来るよう部門メンバーで教育を行いました。



教育の中で、スイッチが押しづらい場所に設置してある指摘を受け、後日スイッチの場所の変更も行いました。



新しく導入したユンボの緊急時の対応も部門内で確認しました。

10. 各部門 活動実績資料

10.3 各部門 改善活動

●フォーク車両 全塗装（早川IRPF工場 2023年12月）

事故や接触を防ぐ安全対策として、視認性の向上を目的としたオールペイントを行いました。



●光電センサー 増設（早川IRPF工場 2023年10月）

破碎機稼働中、立ち入り禁止区間に作業する人が入ってしまった時の安全対策として、光電式センサーを取り付け、破碎機が非常停止するよう、改善を行いました。



●40期 安全パトロール（早川第二工場 2023年6月）

現場で作業している中、実際に見て回り、不安全な場所を探し、改善を行いました。



外階段が滑りやすくなっていたため、手すりとステップ部分に滑り止めテープを貼り、安全対策を行いました。



土間にコンクリートのひび割れが出来ていたため、自社で穴埋めを行い、足をくじくりリスクを回避しました。

11. その他

11.1 廃棄物処理委託先の視察

タズミでは毎年、廃棄物の二次処理委託先への視察を行っています。
本年度は、4社の委託先処理施設について
視察の許可をいただき現地訪問確認することができました。

高俊興業株式会社 様 （視察先：東洋臨海エコ・プラント様）

●タズミで仕分けた廃棄物を、さらに選別してリサイクルする委託先になります。



許可看板



受入作業場



保管ピット



がれき類保管状況



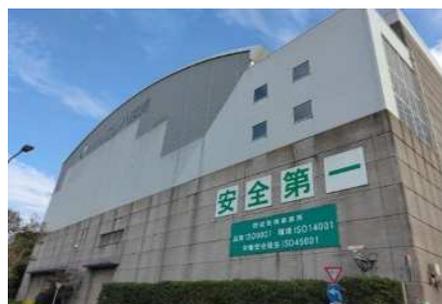
石綿含有廃棄物は袋を2重にして保管

株式会社クレハ環境 様 （視察先：ウエステックかながわ様）

●タズミで処理困難な廃棄物を焼却し、サーマルリサイクル化をする工場です。



許可看板



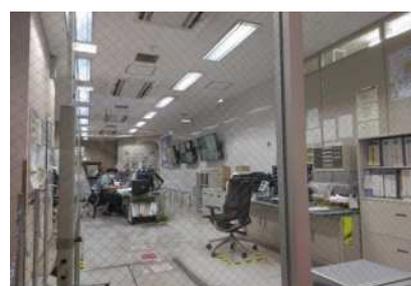
処理場外観



受入ピット土間



焼却炉へはクレーンを使用し、投入



管制室で制御

11 その他 活動実績資料

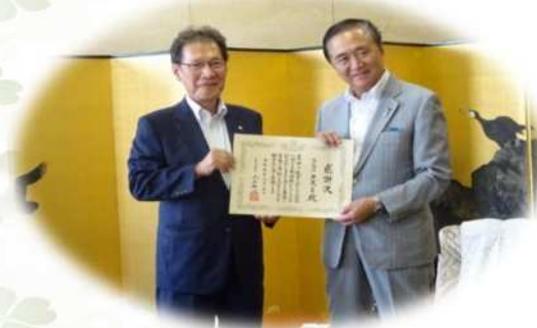
11.2 環境保全寄付



タズミでは毎年、事業所のある自治体及び県に対し環境保全・緑化保全に対して寄付を行っています。

◆SDGs 15.2：2030年までに、森林の持続可能な経営を実施し、森林の減少を阻止回復と植林を増やす

神奈川県 かながわトラストみどり基金



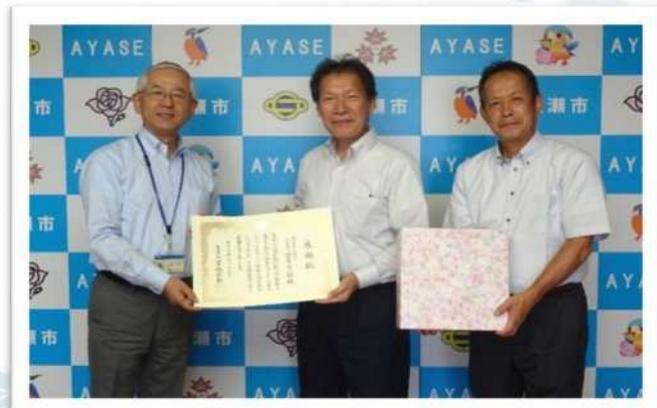
社長、黒岩知事



専務、社長、黒岩知事、常務

綾瀬市

古塩市長、社長、専務



海老名市

内野市長、社長、常務





株式会社 タズミ

本社・吉岡リサイクルセンター

TEL:0467-77-1847 FAX:77-1936

〒252-1124 神奈川県綾瀬市吉岡709番地
早川第2工場

TEL:0467-53-8907 FAX:53-8908

〒252-1123 神奈川県綾瀬市早川2647-32
早川RPF工場

TEL:0467-71-3792 FAX:71-3793

〒252-1123 神奈川県綾瀬市早川2647-35
プラターン海老名工場・海老名第2工場

TEL:046-292-2251 FAX:292-2252

〒243-0434 神奈川県海老名市上郷4丁目2-8

このレポートに関するお問い合わせはこちら

電話：0467-77-1847 FAX：0467-77-1936 HP <http://www.tazumi.jp/>